

文教福祉常任委員会意見交換会報告

令和元年12月20日（金）

去る11月22日開催のケアマネジャーの組織である石川県介護支援専門員協会白山・野々市支部との意見交換会について、その概要を報告します。

当日は、石川県介護支援専門員協会白山・野々市支部の入江支部長を初め、9名が出席されました。

今回、「白山市の在宅福祉サービスの現状と課題について」をテーマとして、意見交換を行いました。その主な意見について述べさせていただきます。

初めに、在宅生活支援についてであります。

介護支援専門員は介護や支援を必要とする人が状況に応じた適切なサービスを利用

できるよう自治体、サービス事業者等との連絡調整を行っているとのことです。

その中で、本市の紙おむつ購入助成について「要件は要介護認定3以上であるが、その前段階から紙おむつを御利用になる方の自己負担が大きい。」といった課題があるとのことでした。

また、介護が必要になると日常の買い物も大変になることから「買い物、通院を主にした乗り合わせのタクシーなどのサービスがあったらいいのでは。」など本市独自の買い物支援を求める声もありました。

次に、地域との連携についてであります。

現状では、介護保険制度単独で要介護者のニーズを必ずしも解消できない状況にあり、地域やボランティア等との連携が重要になっているとのことです。

「体が不自由な独居の方はゴミ出しが困難なので、近所のお手伝いがあればゴミ出しがスムーズになるのではないか。」「草刈

りや電球交換などを相談できるリストを包括でつくってくれたが、数が少なく、そこをふやしていくことが大事だと感じている。」など、地域の様々な資源を活用し、個々に適したサービスを提供できる体制づくりの必要性を話しておられました。

次に、介護支援専門員のなり手不足についてであります。

介護支援専門員の受験者が昨年から激減しており、今後の人員確保に大きな影響があるのではとのことでした。

要因の一つとして、処遇や給与面での問題の改善が進んでおらず、介護支援専門員に対しての魅力が低いとのことでした。若手の職員が経験を積む間に家族ができ、養うことができなくてやむなく辞めてしまうなどの実情もお聞きしました。

一方で「家族や本人さんが何でも頼ってくださるようになるという信頼関係がすごく嬉しい。」など、仕事の魅力も多く御紹介

いただきました。

介護支援専門員協会としても、処遇改善を含め、福祉の仕事の魅力を高める取り組みを進めていきたいと話しておられました。

以上、主な意見を述べましたが、このほかにも、活動上の悩みや提案について、大変多くの御意見をいただきました。

この意見交換会を通じて、高齢者が地域で自立した生活をするためには、地域の助け合いやボランティア等の地域資源を活用していくことが重要であると感じたところであります。

以上で意見交換会の報告を終わります。